

28KA-am05

離島・僻地医療に貢献できる薬剤師養成教育システムの構築1:離島医療に対する薬学部生の意識の変化

○中嶋 弥穂子¹, 荒木 良介¹, 中里 未央¹, 前田 隆浩¹, 大園 恵幸¹, 青柳 潔¹, 塚元 和弘¹, 畑山 範¹(¹長崎大院医歯薬)

【目的】長崎大学薬学部では、平成19年度から離島・僻地を多く抱える長崎県の地域性を活かし、五島列島の病院、薬局、保健所、役所および福祉施設での離島医療・福祉・保健実習（離島実習）を開始した。本実習は薬学部生が医学部生と合同で地域医療を体験し、離島で全人的医療を学ぶものであり、従来の薬学教育にはなかった新しい取り組みである。本発表では離島実習の概要と、実習の前後における学生の離島医療に関する意識の変化についてアンケート調査を行い評価したので報告する。

【方法】6週間の実務実習（病院4週間+薬局2週間）を終了した薬学部4年生79名全員を4名ずつの20グループに分け、7月から12月まで上五島コース（新上五島町）と下五島コース（五島市）に1グループずつ派遣して1週間の離島実習を実施した。各コースは同じ実習スケジュールである。保健所、役所および福祉施設での実習は医学部5年生と一緒に、病院および薬局での実習は薬学部4年生のみで行った。本実習を円滑に実施するため実務経験のある薬学部教員が実習地域の基幹病院に常駐し、医学部生の実習担当教員や各実習施設の指導担当者（薬剤師、保健師等）と協力して学生指導にあたった。離島医療に対する認識などについて実習の前後にアンケート調査を実施した。

【結果・考察】離島医療について興味があると回答した学生の割合は、実習前にも7割と高かったが、今回の離島実習の体験により、実習後には9割に上昇した。また薬剤師として離島で勤務してもよいと回答した学生の割合が実習前の2割から実習後には4割に上昇したことから、本実習が医療的過疎の地域における薬剤師教育と供給の模範的モデルになることが示唆された。